

平成28年度入学時アンケート調査

下川 俊彦 九州産業大学 情報科学部 情報科学科
Toshihiko SHIMOKAWA Department of Information Science, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
toshi@is.kyusan-u.ac.jp

1. はじめに

情報科学部では、新入生の入学動機、大学での勉強に対する意欲などを把握するため、平成22年度より入学時アンケートを実施している。アンケートは無記名式で、必修科目「情報科学序説」1回目の授業中に回答してもらっている。平成28年度は7回目の実施となった。本稿ではその実施内容と結果を報告する。

2. 実施内容

アンケートは全部で11の設問からなる。

- (1) 情報科学部に入学した動機
- (2) 情報科学部の志望順位
- (3) 志望大学・学部を決めた時期
- (4) 第1志望大学
- (5) 合格した入試種別
- (6) 出身高校
- (7) 情報科学部で勉強したいこと
- (8) 興味のある職業・分野
- (9) 友達の大学選択の理由
- (10) 大学院の認知度
- (11) 大学院進学への意欲

設問によって順番付け、丸付け、記述式など回答形式が異なる。上記の設問のうち、設問1,7,8が順番付け方式、設問2,3,5,6,9,10,11は丸付け方式、設問4は記述式である。設問・回答形式ともに、昨年度のものと同様である。

3. 結果

回答数は157で、対象学生162名に対して、96.9%であった。集計にあたって、順番付けの場合は、1位を3点、2位を2点とし、3位以降は1点と計上している。

入試種別ごとの回答の違いを分かりやすくするため、推薦入試およびAO入試と、一般入試などそれ以外の入試による合格者を分けて集計している。本稿においては、前者を推薦入試等合格者、後者を一般入試等合格者と呼ぶことにする。以下、設問の内容及び選択肢の詳細について集計結果と合わせて報告する。

3-1 情報科学部に入学した動機について

情報科学部に入学した理由を以下の選択肢から、最も強い理由を3つまで順番付けして回答する。

- 学びたい分野の授業科目があるから
- 就職状況がよいと聞いたから
- 高校の先生の勧めがあったから
- 親や兄弟など家族の勧めがあったから
- 先生や事務の人の面倒見がよいと聞いたから
- 知名度が高かったから
- 教員免許が取得できるから
- 目指す資格や免許が取得できるようだから
- 就職支援体制が充実していると聞いたから
- 偏差値が適合していたから
- 専門教育が充実していると聞いたから
- 幅広い教養が身につくと思ったから
- 福岡では一応名の知れた大学だから
- 面倒見の良い大学と聞いたから
- 実習などが充実していると聞いたから
- 語学教育に力を入れていると聞いたから
- 先輩が学んでいる大学だから
- 家族や親類の出身大学だから
- スポーツ活動が盛んだから
- オープンキャンパスに来てみて、良さそうに見えたから
- その他

集計結果を図1と図2に示す。各項目の数値は、本章冒頭で説明した順位に基づく点数の合計である。入試種別ごとに点数の多いものから順に整列した。

一般入試等合格者においては、「学びたい分野の授業科目がある」「偏差値が適合していた」の2項目の点数が特に高かった。これに加えて、教員免許や資格・免許を取得できるから、という理由も比較的点数が高い。

推薦入試等合格者においては、「学びたい分野の授業科目がある」の項目の点数が高かった。これに加えて、オープンキャンパスでの印象が高い点数を得ているのが、一般入試等合格者との違いである。教員免許や資格・免許に関する項目は、一般入試等合格者と同様に点数が高い。一方で、高校の先生や家族の勧めに関する点数が、昨年度と比べると若干低くなっている。

その他の項目としては、「設備が充実していた」「自宅から近く通える」などの回答があった。

全般的に見ると、授業科目や免許・資格に関するもの



図1 入学理由 (一般入試合格者)

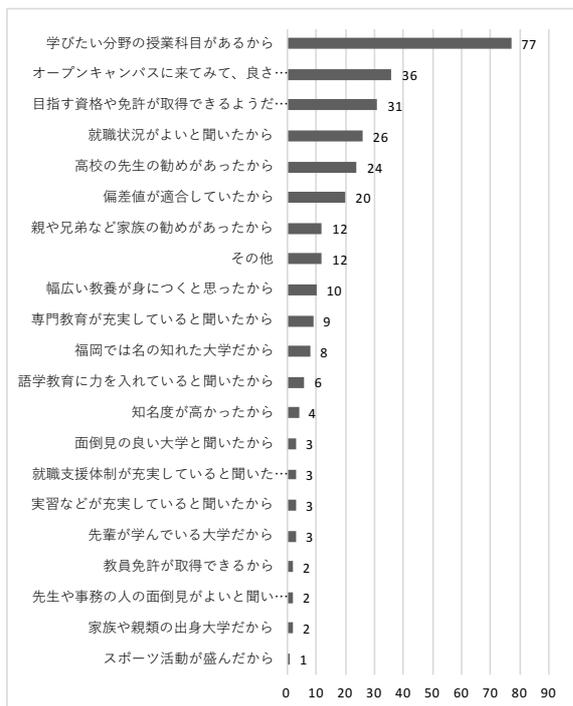


図2 入学理由 (推薦入試合格者)

など、教育内容に関する項目が、入学した理由として大きいことが分かる。

3.2 情報科学部の志望順位について

情報科学部は第何志望であったかの質問に対する回答の集計結果を図3に示す。数値は、入試種別ごとに、各

順位を回答した人数の実数である。

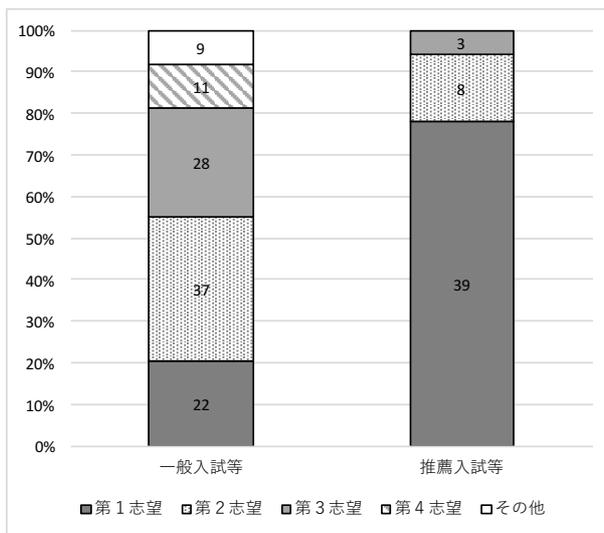


図3 情報科学部の志望順位

一般入試合格者においては、第1志望から第4志望まで回答が分散しており、第1志望の回答はやや少なめであった。推薦入試合格者においては、第1志望の回答が8割近い。

傾向としては、昨年度と同様であった。

3.3 志望を決める時期について

志望大学・学部を決める時期についての質問に対する回答の集計結果を図4に示す。数値は、入試種別ごとに、各選択肢を選んだ人数の実数である。

一般入試合格者においては、3年次の冬に決める人が最も多くほぼ半数であった。推薦入試合格者においては、3年次の夏に決める人が最も多い。これは、それぞれ入試が実施される時期の直前となっていると考えられる。また、傾向としては、昨年度とほぼ同様であった。

3.4 第1志望大学

第1志望大学についての質問に対する集計結果を図5と図6に示す。数値は、各大学と回答した人数である。入試種別ごとに回答者数で整列した。

一般入試合格者においては、上位三校は、福大・福工大・本学であり、昨年と同様であった。昨年度は一昨年度に比べて福大志望生が増えていたが、本年度は、さらに福大を第一志望としていた学生が増加して、最も多くなった。

推薦入試合格者においては本学が1位であり、他大学を第一志望としている学生は少数だった。これは昨年度と同様の傾向であった。

3.5 入学試験種別

合格した入試種別を以下の選択肢で聞いた。

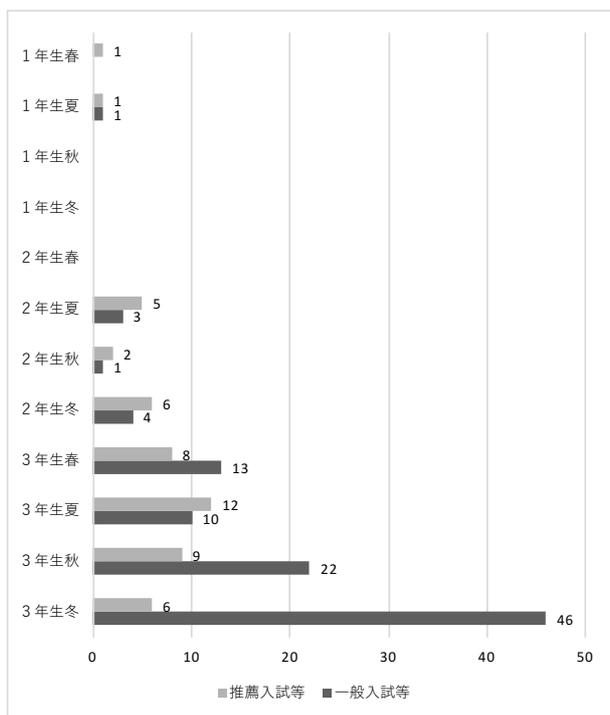


図4 志望を決める時期

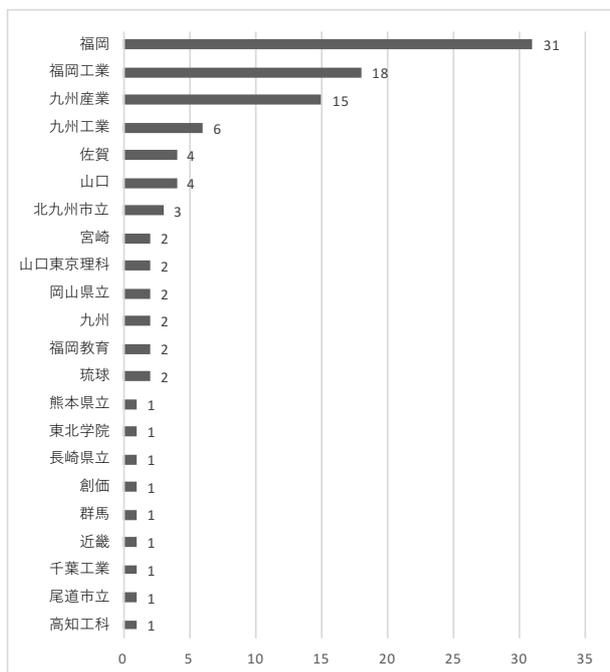


図5 第1志望大学(一般入試等合格者)

- 推薦入試
- AO入試
- 一般入試
- センター試験利用入試
- 一般入試・大学入試センター試験併用型入試
- 特別入試(社会人入試・帰国子女入試・留学生入試)

集計結果を図7に示す。各項目の数値は、各項目を選

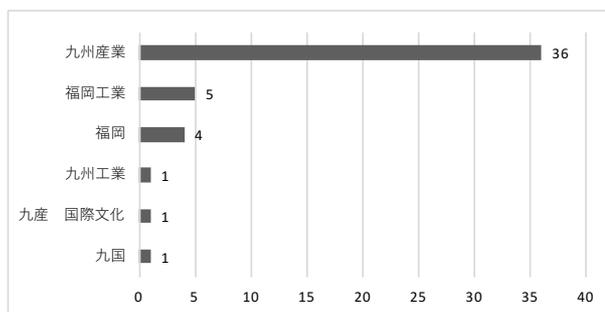


図6 第1志望大学(推薦入試等合格者)

択した人数の合計である。一人で複数の入試種別に合格している学生が居るので、合計した値は、回答者数を超える。

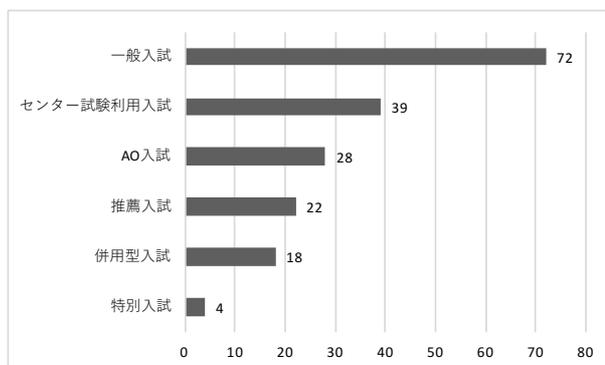


図7 合格した入学試験種別

3.6 出身高校

出身高校を以下の選択肢で聞いた。

- 福岡市内
- 福岡市以外の福岡県内
- 福岡県外

集計結果を図8に示す。数値は、入試種別ごとに、各選択肢を選んだ人数の実数である。

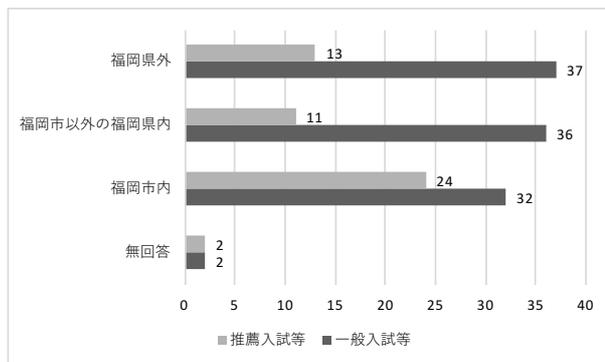


図8 出身高校

3・7 情報科学部で勉強したいこと

情報科学部で勉強したいことを以下の選択肢から、順番付けて回答する。

- エクセルやワードなどの使い方
- コンピュータグラフィックの作り方
- プログラムの作り方
- 種々のプログラム言語の使い方
- ネットワークについて
- ホームページの作り方
- コンピュータの構成や動作原理
- 数学や情報科学に関する理論
- その他

集計結果を図9に示す。各項目の数値は、本章冒頭で説明した順位に基づく点数の合計である。

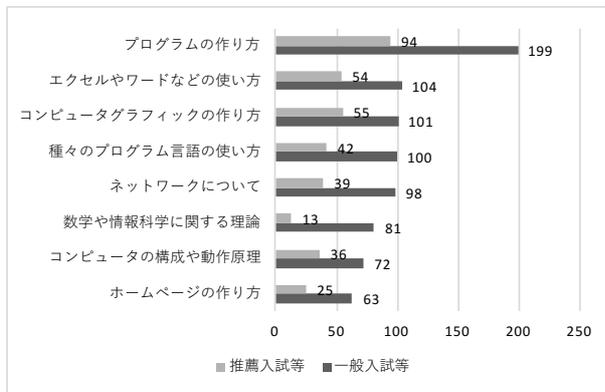


図9 勉強したいこと

入試種別に関わらず、「プログラムの作り方」に対する興味を持つ学生がもっとも多かった。昨年度から引き続き同様の傾向である。

昨年度から追加した「コンピュータの構成や動作原理」「数学や情報科学に関する理論」の2つの選択肢についても、昨年度同様、興味を持っている学生が一定数居る。

3・8 興味ある職業・分野

情報科学部では学生の職業選択をイメージできる履修モデルを掲げ、情報科学・情報技術の教育を行っている。この設問は新入生に将来の職業に対する意識を聞く設問であり、情報科学部の履修モデルに合わせて以下の選択肢を設けている。これらから順番付けて回答する。

- システム開発ができるエンジニア
- 組み込みシステムエンジニア
- ネットワークエンジニア
- Web、CGデザインなどコンテンツ分野で活躍できるエンジニア
- 情報システム運用管理者
- 教員や情報科学研究者
- その他

集計結果を図10に示す。各項目の数値は、本章冒頭で説明した順位に基づく点数の合計である。

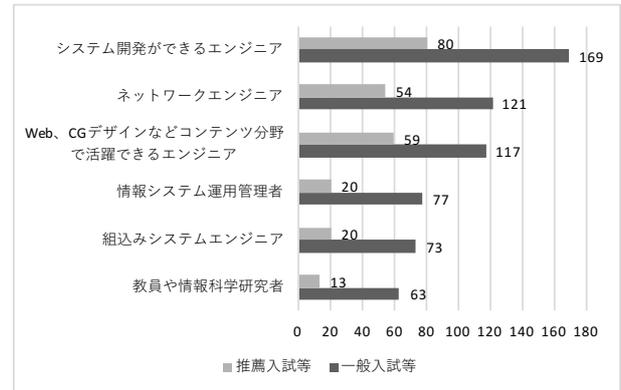


図10 興味ある職業・分野

入試種別に関わらず、システム開発、ネットワーク、コンテンツ分野、組み込みシステムに興味をもつ学生が多いことが分かった。これも昨年度と傾向に変化はない。

3・9 友達の大学選択の理由

各学生の友達が、どのような理由で大学を選択していると思うかを、以下の選択肢で聞いた。

- 評判の良い大学
- イメージのよい大学
- 面倒見の良い先生や事務の人たちがいるとの評判の大学
- 先輩たちからすすめられる大学
- 親からすすめられる大学
- 先生からすすめられる大学
- 授業内容のよい大学
- 学生の質のよい大学
- ファッションに敏感な学生のいそうな大学
- 先生たちがテレビなどで活躍している大学
- 先端の研究を行っている大学
- よく宣伝を行っている大学
- 大学の名前がすぐ頭に浮かぶ大学
- 教育のレベルの高い大学
- 先生たちの研究
- その他

本質問は各学生の友人に関する問いであり、入試種別に無関係と考えられるので区別せずに集計した。集計結果を図11に示す。各項目の数値は、各項目を選択した人数の合計である。

評判、イメージ、知名度などが重視されていることが見て取れる。また先生からの推薦も大きな要因となっていることが分かる。その他としては、就職率や学力・偏差値という回答があった。

この項目も昨年度と傾向に変化はない。

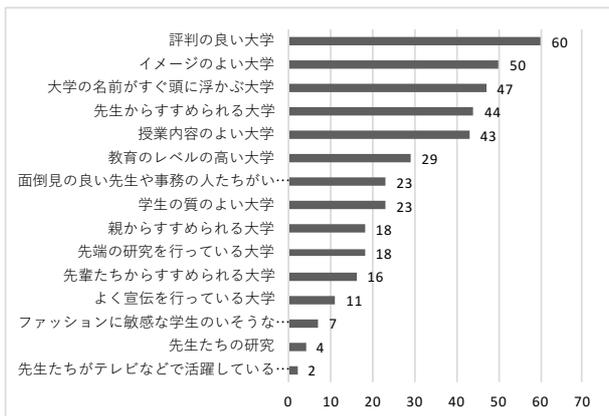


図 11 友達の大学選択の理由

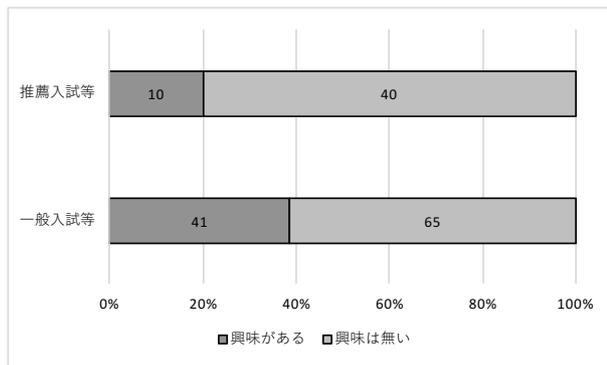


図 13 大学院進学への興味

3・10 大学院の認知度

九州産業大学大学院情報科学研究科の認知度について、以下の選択肢で聞いた。

- 知っていた
- 知らなかった

集計結果を図 12 に示す。数値は、入試種別ごとに、各選択肢を選んだ人数の実数である。

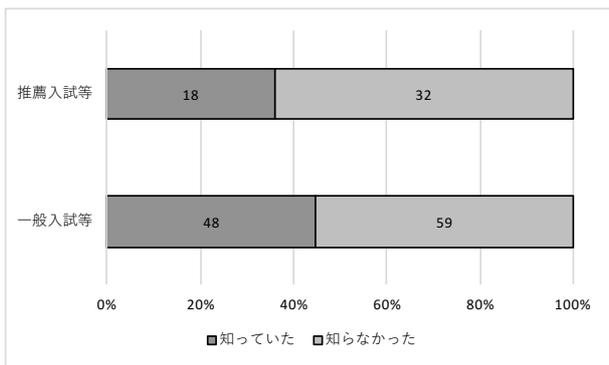


図 12 大学院の認知度

入試種別に関わらず、ほぼ 4 割の学生が知っていた。この項目も昨年度と傾向に変化はない。

3・11 大学院進学への興味

大学院への進学への興味について、以下の選択肢で聞いた。

- 興味がある
- 興味はない

集計結果を図 13 に示す。数値は、入試種別ごとに、各選択肢を選んだ人数の実数である。

一般入試等合格者については、4 割弱の学生が進学に興味を持っている一方、推薦入試等合格者については、進学に興味を持つ学生が 2 割程度にとどまっている。

4. 終わりに

本稿では平成 28 年度新入生を対象とした入学時アンケートの結果について報告した。全体的な傾向としては、昨年と大きな変化はない。大学で学びたいこととして、昨年度に引き続き、プログラムの作り方が上位に来ていることは喜ばしい。

来年度は、新学部新学科で入学生を受け入れることになる。入学時アンケートの実施については未定であるが、実施した場合、傾向の変化に注視する必要があると考える。